参考資料

（コミュニティソーシャルワーク機能修得研修・ロールプレイ課題）

（ロールプレイの課題）

①虐待の通告のあった家庭への子ども家庭支援センターのソーシャルワーカーである職員の訪問場面

②「ひきこもり」の男性がいると連絡を受けたソーシャルワーカーとしての社会福祉協議会の職員が自宅訪問

③依存症の男性の対応をしてほしいとの家族からの連絡でソーシャルワーカーとしての社会福祉協議会の職員が自宅訪問、

④外国人の家族が近隣住民とトラブルを起こしているとの連絡でソーシャルワーカーとしての社会福祉協議会の職員が自宅訪問

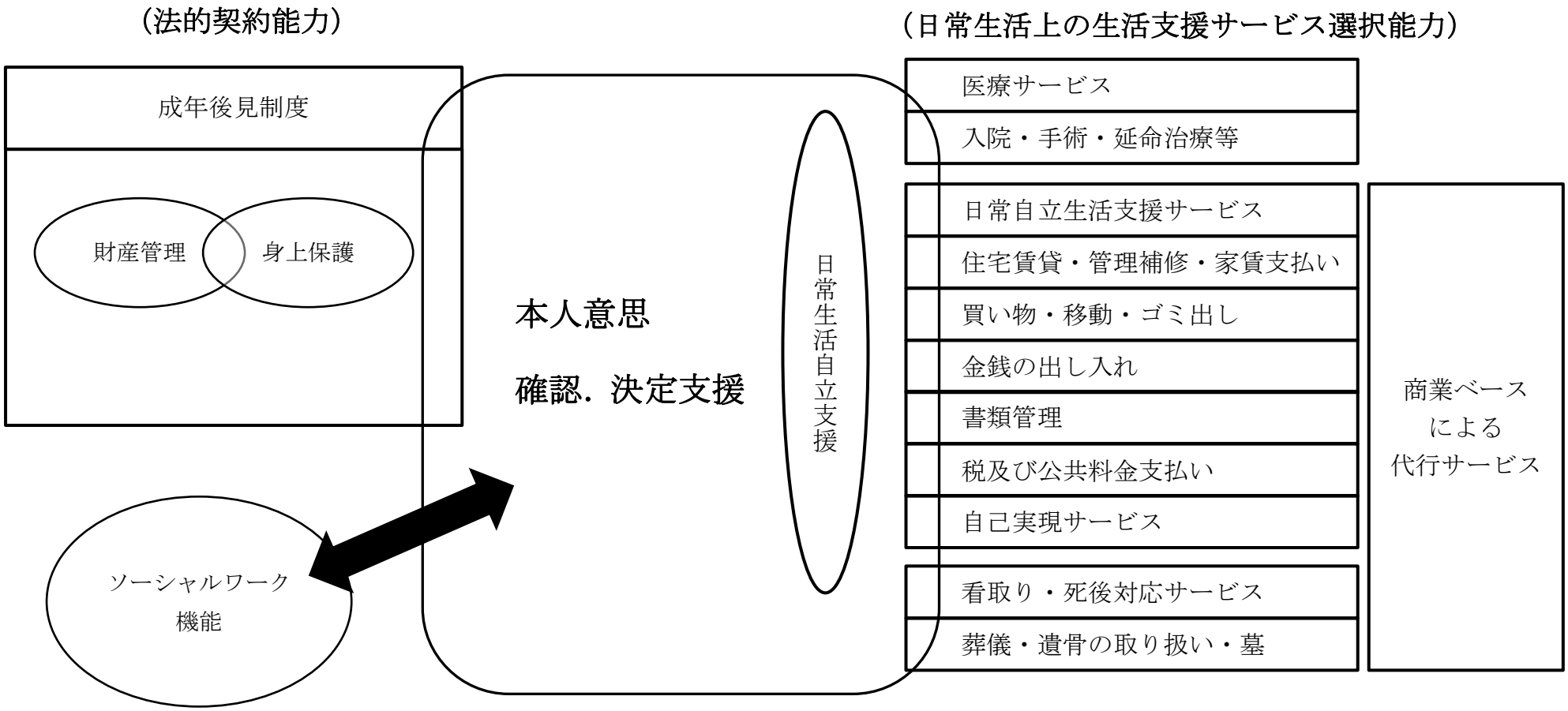
⑤「８０５０問題」を抱えた家庭で、ゴミの問題、男性の怒声が聞こえると通告を受けた地域包括支援センターがソーシャルワーカーである社会福祉士を家庭訪問させる

⑥刑余者が金銭がなく、住むところもないと生活困窮者自立支援センターに相談に来られた。

３人一組
一人は　ソーシャルワーカーの役割
一人は　生活問題を抱えている個人、家族の立場
一人は　参与観察者として、ロールプレイを観察分析し、課題を抽出、報告する

記録用紙（一人以下の様式の３枚が必要）
① ソーシャルワーカーを演じてどういうことが勉強になったか、従来気が付いていなかったところを何か発見したか
② 相談する立場、訪問される立場を演じて気が付いたことを記録する
③ 参与観察者として、ソーシャルワーカーを演じた人、相談する立場、訪問される立場を演じた人の演義をみて感じたことを書く

＜生活の主体性を支える意思確認決定支援の構造＞



2018 年 10 月作成　大橋謙策

問題解決プログラム開発・企画立案書

実践テーマ （プログラム名）	
生活問題・解決したいニーズ （箇条書き）	
問題の分析・背景	
ニーズの多さ・共通性・社会性・将来予測など必要性を示すデータ	
目的・目標	
解決するための方策 ・具体的な内容 ・担い手（運営主体、連携する団体や人） ・実施体制　等	
実現するための手順 ・ニーズ調査や協議の場等、関係者との合意形成や準備のために、いつまでに何を行うか ・その際に配慮が必要な点等	
予算・財源 ・事業規模 ・事業内訳 ・事業の積算根拠 ・財源の確保方法	
本事業の特色	
参考となる実践例	
法的根拠	

「社会生活モデル」に基づくアセスメントの視点と枠組シート

２００１年大橋謙策作成・２０２０年修正

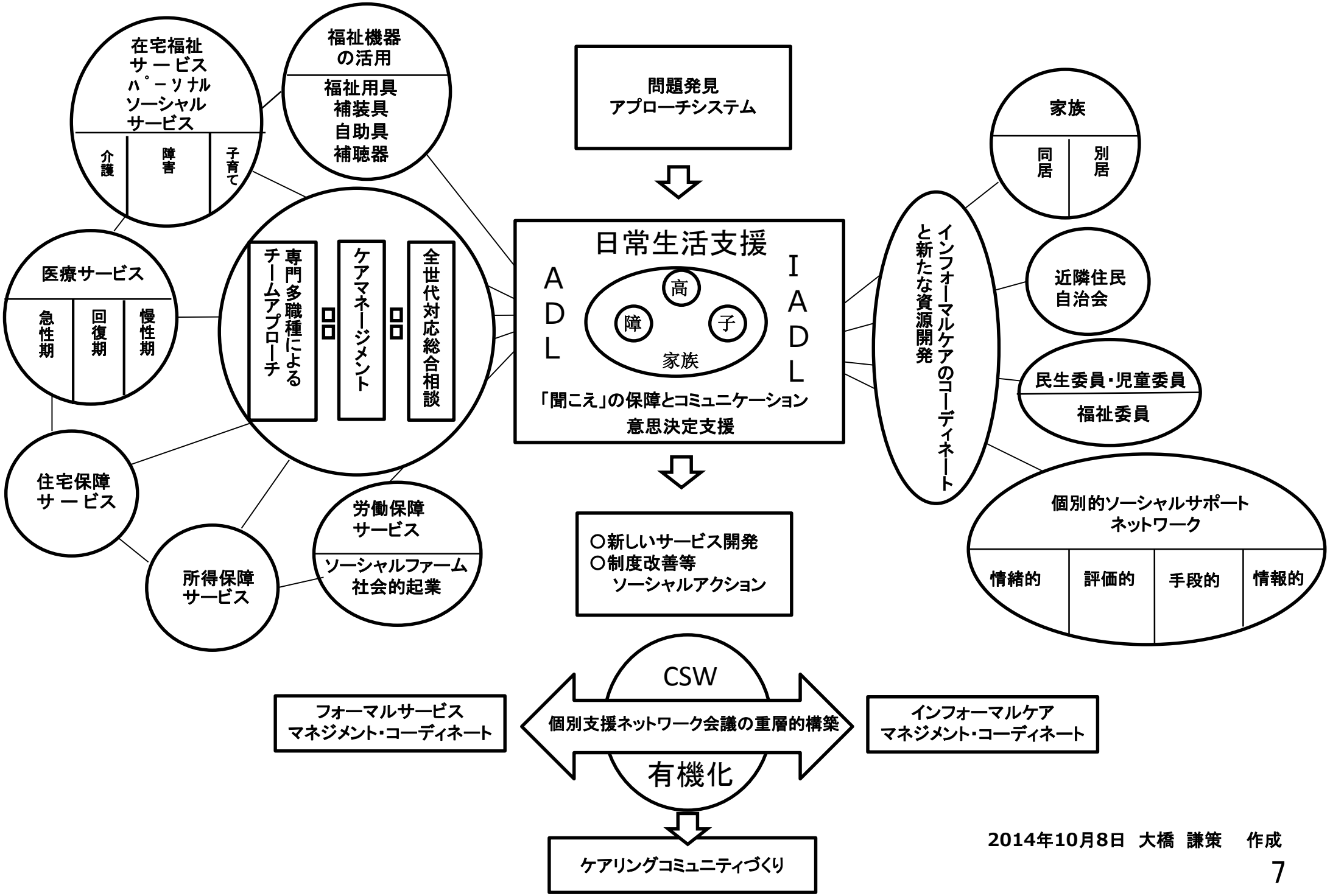
世帯員	視点項目	① 生育史 生活歴 希望	② 職歴 社会的活動	③ 労働的 経済的自立 （収入源）	④ 住宅 住まい	⑤ 身体的自立 健康的自立 （病歴・ 生活リズム）	⑥ 生活技術的 家政管理的自立 （買物・料理・ 掃除・家計など）	⑦ 生活移動 手段	⑧ 契約的自立 意思表明 能力	⑨ 精神的 文化的自立 （趣味・特技など）	⑩ 社会関係的 人間関係的自立 （交友・近隣・ 当事者会など）	ソーシャルサポートネットワーク					
												⑪ 家族の 人間関係	⑫ 近隣の 人間関係	⑬ 情緒的Ｓ	⑭ 評価的Ｓ	⑮ 手段的Ｓ	⑯ 情報的Ｓ
Ａ	強み																
	課題																
	見立て→ 援助方針																
Ｂ	強み																
	課題																
	見立て→ 援助方針																
Ｃ	強み																
	課題																
	見立て→ 援助方針																
Ｄ	強み																
	課題																
	見立て→ 援助方針																
同居家族全体	強み																
	課題																
	見立て→ 援助方針																

<table>
<tr><th>相談経路及び経緯</th><th colspan="2">基本属性及びジェノグラム</th></tr>
<tr><td rowspan="3"></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">フォーマル・インフォーマルのエコマップ</td></tr>
<tr><td>（フォーマルエコマップ）</td><td>（インフォーマルエコマップ）</td></tr>
</table>

＜___グループ＞

対象者 （問題を抱えている人）	①認知症高齢者　　②刑余者　　③ひきこもり ④近隣との関係が悪い 8050 世帯　⑤子育て不安を抱えている母子家庭 ⑥精神障害者　　のうちから１つ選択
想定される事例の概要	
本人が持っている思い・悩み、葛藤など	
本人が自分のサポーターになってもらいたい人、どういう人のどんな支援であれば受容するか	
その情報を把握する方法・聞き出し方等	
サポーターとなり得る人を地域で把握・発見する方法	
その人に対して、どのようにして理解してもらうか	
本人が「その人に頼んでみよう」、「もう一度やってみよう」という気持ちになるために必要な働きかけ	
どのようなソーシャルサポートネットワーク（情緒的・評価的・手段的・情報的サポートの４つの機能）をつくるか、その具体的な内容	

＜地域包括ケアとコミュニティソーシャルワーク＞



2014年10月8日　大橋　謙策　　作成

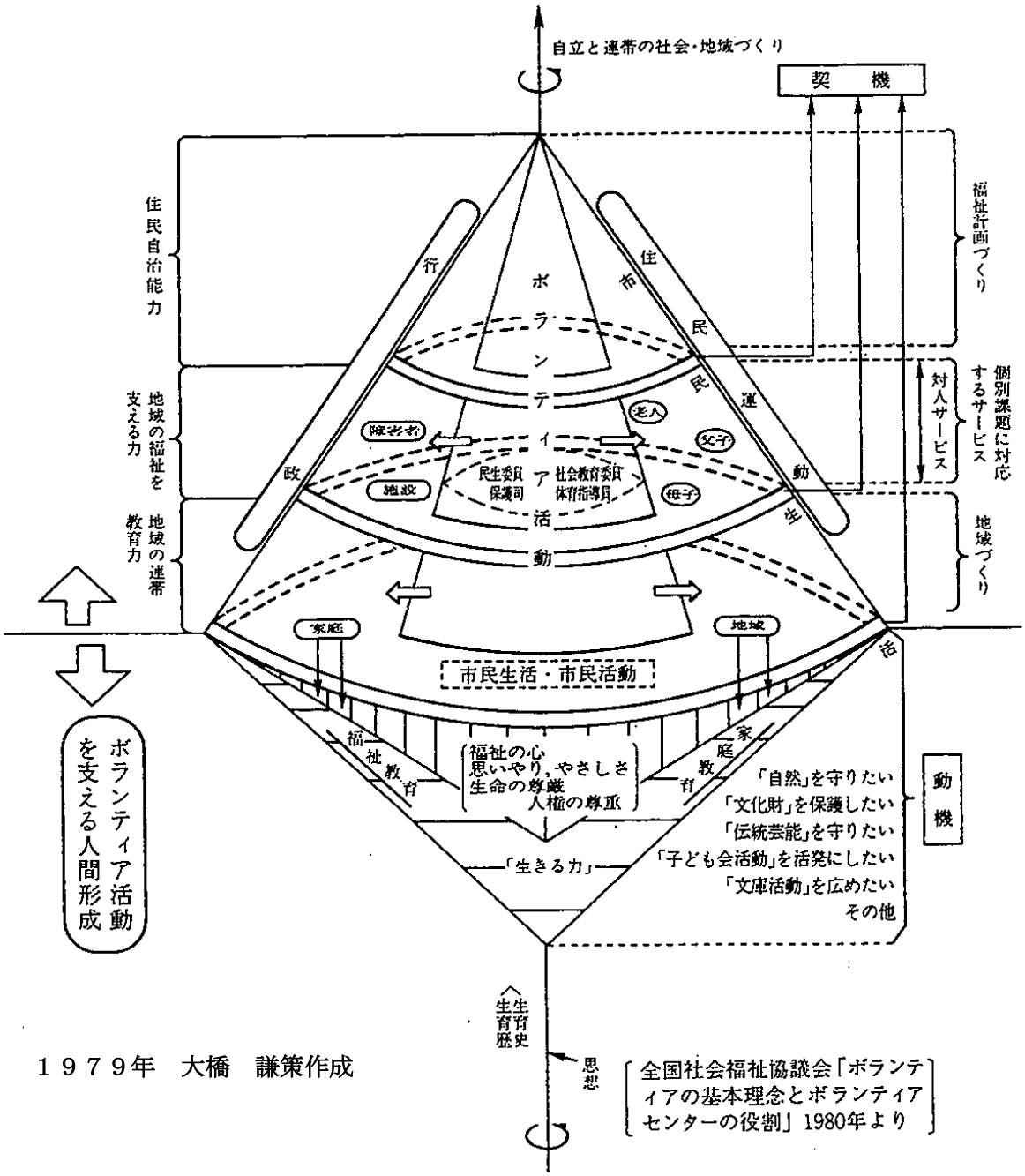
（ ボランティア活動の構造 ）

① ボランテイィア活動の目的は、自立と連帯の社会・地域づくりを実現することである

② ボランティア活動は、（イ）近隣における助け合い等ができる地域づくり、（ロ）地域に住んでいる生活のしづらさを抱えている人々を支援する個別対人サービス、（ハ）市町村レベルの社会福祉を豊かにする地域福祉計画づくりという３つの側面がある

③ ボランティア活動は、市民一人一人が上記のことを当たり前にできる市民活動を活性化させる触媒活動である、

自立と連帯の社会・地域づくり



１９７９年　大橋　謙策作成